

一人ひとりの夢を実現する奇跡の劇場



建築家／武蔵野大学教授／みの〜れ建築設計

みず たに とし ひろ
水谷俊博さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.184

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。みの〜れの森の木々は葉っぱを落として、また違った景色を楽しむことができます。日が沈むと館内からの柔らかな灯りがみの〜れをより一層引き立て、冬ならではのほっこりした気分を感じることが出来ます。今回は、みの〜れの建築設計を担当された、東京都にお住まいの水谷俊博さん取材します。

協力と共感 努力の結晶

建築設計を担当した水谷さんは、みの〜れの特徴を次のように教えてくれました。

「森のホールは土壁と木で構成されていて、他にはない音の響き」「住民の方からの意見で、森のホールの客席を半分300席で仕切れるように設計に反映」「森のホールと風のホールをぐるっと回れる動線にすることで、回遊性があったてみんながつながっているという設計イメージ」「風のホールを風の広場となげ、多様な使い方に対応できるようにしたこと」「ホワイエは梁が見えない美しさを目指したこと」(他多数)

建築監理の仕事のため、みの〜れ誕生まで2年近く美野里町に住んでいた水谷さ

ん。激務の中、みの〜れこれから落とし公演「田んぼの神様」に参加。仕事も稽古もハードな日々が続き、何度もくじけそうになりながらも毎週稽古を積み、ガマガエル役で出演。「本番前の発声練習で、キャスト全員で劇中歌を歌ったとき、私がいきなり号泣したんですよ。自分も周りもびっくりしました。大人になると泣くことってそうないじゃないですか。これでやっと開館かと思ってこみ上げたんですかね」。

20年後の11月3日、みの〜れ20歳の誕生日に行われたリレートークに出席するために、水谷さんは東京から駆けつけてくれました。

みの〜れがとてもきれいな状態で、大切に使い込まれていること。リレートーク登壇者の皆さんから、みの〜れがいきいきと活動する拠点として欠かせない存在になっていること。文化がみの〜れ物

語を引用した振り返りと未来へのメッセージに「みの〜れが生まれた時のことを思い出してまた泣きそうになった」と水谷さん。「誕生時によちよち歩きだったみの〜れが成熟して、館に関わる人たちの世代間の引き継ぎも含め、素晴らしい展開がされていることが本当に嬉しいです。地域の劇場としてあるべき姿」と褒め称えます。

「20年間、じっくりと時間をかけて育ててきたみの〜れ。子どもたちが輝いていて、夢をしっかりと実現できる奇跡の劇場だと思いました。協力と共感があったること。みなさんの努力の結晶だと思います」と笑顔で話してくれました。

ひとつひとつに思いが込められて誕生したみの〜れ。爽やかな風が流れ、柔らかな光が降り注ぐみの〜れ。健やかに成長してくれてありがとう。

(藤田佐知子)